

ホーム名：グループホームあおやま2F					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自己決定を尊重し、その人らしい生活を支える』として理念を掲げたことで、職員本位にならずに必ず入居者の立場になってその方の想いを達成できる関わりを努めている。皆が絶えず意識出来る様に全体会議で理念の唱和を行う。	理念の掲示は本ホームの基本方針を示すものであり、訪問者や入居者、及び家族にも理解が得られている。額に収められている文字は、入居者自身の自筆である。職員の勤務前の唱和は、その意志の強い表れと言える。理念の共有と実践は滞りなく実現されている。	入居者の自己決定は入居者の為のホームである事を印象付けている。今後の課題として、個人個人の意思決定がどのようなものであるかを記録され、実現へのステップにして頂きたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩が好きな方には、施設の近くを歩いて頂いている。近隣の方とお会いする機会も時々ある。秋祭りの時期には他施設と合同で地域の神輿を披露して頂き子供達との交流が持てた。近隣GHの方との交流会には今も積極的に参加を行っている。	地域社会との付き合いにおいては、祭事への参加やボランティアの受け入れ他、グループホーム同士の交流会など、極めて積極的な関わりを持つようになっている。また散歩や外出などにも地元の方々との明るい挨拶を欠かす事はない。事業所が設定した目標達成計画の中にも、地域との付き合いを重要視され、交流の必要性の認識は高い。	外出時における入居者と地域の方々の接触は人間同士の付き合いという印象深いものがある。可能な限り外出の機会を増やされ、地域住民との直接会話を促されるようお願いしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族との話し合いの中で、GHでの取り組みや認知症の方への関わり方法をお伝えする事はあるが、地域の方へとなると、貢献はまだまだ積極的には出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み +A:G運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月に一度行っている会議での意見や情報・提案などを踏まえ、すぐに取り組めることは早急に、検討が必要な場合は上位会議で報告・相談して反映させて頂いている。	運営推進会議は二ヶ月毎に開催される。市職員、包括支援センター、民生委員、老人会、区長、家族代表、施設関係者から出席を求めている。議事録は藤井寺市のHPにも掲載され、その明確な公表システムは、開かれたグループホームの方針に沿ったものである。	参加者の中に認知症の専門家の参加も検討されてはどうだろうか。専門家ならではの意見も聞くことができ、福祉サービスの向上につながるものと考えられる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の職員とも、介護保険上の事や加算に関する事、運営上に不明な点を相談させて頂くとすぐに回答を頂けていることから円滑な関係を構築させて頂いている。研修等の情報も積極的に頂き市や地域包括が実施した研修会などに参加した。	事業所だけでは判断できかねる問題も市町村に相談しアドバイスを受けたりしている。平素からの密接な関係の一環として大阪府主催の認知症に関わる実務者研修の紹介も受けている。地域密着型のグループホームとして常に市町村との関わりを維持している。	福祉事業の在り方を分析するについては、市町村からの数的データの提供が必要である。今後も市町村との綿密な関係を維持されるよう努力がほしい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはGH職員のみならず、法人職員も禁止意識は高い。フロア内エレベーターについては暗証番号制御されており、誰かと共に外出して頂くシステムになっている。外部内部の『身体拘束、虐待について』の勉強会に参加して自設で振り返り勉強会を行っている。身体拘束の適正化の為の対策、検討について考察し運営推進会議で報告している。	本事業所では身体拘束はしていない。拘束に繋がるミトン手袋や繋ぎ服などは存在しない。平成30年4月には身体的適正化のための指針を策定し、拘束のない介助支援に励んでいる。入居者の外出についてはエレベーターを使用するが、身の安全を確保するため、職員が暗証番号を押して起動し、必ず職員が付き添う事となっている。	事業所の身体拘束禁止の研修は高く評価したい。これからもあらゆる機会を通じて身体拘束をしてはならないという研修や勉強会に参加され、常に強い意識をもって介助支援にあたって頂きたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の入り口には乱れた接遇があると考えている。言葉遣いから始まる多様な接遇面を職員皆が守る事が、ひいては虐待防止につながるかと考えている。虐待防止についての定期的な意識向上を行っていき職員間で注意しあう様になっている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>二名の入居者が後見人制度を利用されている。弁護士との連絡もこまめに行っており関係性は円滑である。ただ、後見人制度そのものには学習不足は否めないことから、さらなる知識向上が求められ今後の課題にも成る。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を踏まえた説明でご了承いただいている。料金や加算の変更についても即時入居者家族に連絡しご了解いただいている。疑問が出ればすぐにご連絡頂ける関係性も構築できている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>上記にあるように疑問・提案・苦情があればすぐに連絡頂ける関係性はある。事業所で回答が難しい場合は上位会議にて議題としてあげている。早急な対応で解決に繋がっている。玄関先には意見箱を設置している。</p>	<p>運営に関する家族の意見や提案は常に受け入れるようにし、検討できるようにしている。事業所と家族との関係は綿密であり、家族が安心して任せる事ができる環境にある。特に家族の訪問時にはその会話などを通じて要望を聞き、会議などで発議するようにしている。意見箱はあまり活用されていないが、それは家族と職員の対話が主である為である。</p>	<p>開かれた福祉施設であるためには運営に関する家族の意見や要望をしっかりと聞き取り、すべてを記録されたうえで、選別することなくそれらを会議で提起されることを望みたい。家族にとっては、思いのほか重要視している場合もあり、施設運営向上につながっていくものと考えられる。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一回、フロア単位の会議とGH全体の会議を開催している。会議一週間前には職員個々に議案を提出してもらい、回答を集め、皆の意見が会議内ですぐに話し合える状況を作っている。正職員やパートの意見が同等に扱われるように上位職は心がけている。</p>	<p>毎月、各階のフロア会議が開催され、GHの全体会議へと繋がれている。この会議で、職員やパート勤務者も運営に関わる意見を提起することができ、全員で検討されている。事業所はこれらの意見を踏まえて可能な限り運営に反映できるような努力をしている。</p>	<p>職員やパート勤務者は平素の介助支援の体験から、運営に関わる意見として参考になるものがある。意見の採択については職員と事業所の深い信頼関係の基盤が必要である。これからも、この事業所と職員の良好な関係を維持して頂きたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>7月には自己評価と直属上司による一次考課、管理上司による二次考課を行い、正当な評価が受けられるように取り組んでいる。考課表を示す事で職員自身も何をすべきことなのかを把握できる効果がある。また面談時には相談する機会にもなり向上心が持てる様に働きかけている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>GHには学習委員を設置しており、自主研修・他事業所との合同研修を定期的に行っている。隣接している青山病院その他グループ事業で行われている参加可能な研修にも進んで足を運んでいる。今年度も各勉強会に職員は参加して持ち帰り学習会に繋がった。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>近隣GHとのつながりを持つために『グループホームの集い』に参加している。一ヶ月に一度は管理者・計画作成担当者の集まりがあり、入居者・職員の交流の月もあり、それに参加している。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時のアセスメントはもとより、家族にも協力して頂き、その方の想いを教えて頂くような用紙を用意している。</p> <p>職員は入居者ごとの担当を決めており、その方の想いが聞きだせるための馴染みの関係が築けるように心がけている。又他の職員からの意見も取り入れて安心して生活して頂けるように心掛けている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時では家族の状況・不安・要望を必ず聞き取っている。入居直後は特に家族への情報提供は欠かさない。上記にある入居者ごとの担当者が月に一度『あおやま便り』という手書きのお手紙を写真を添えてお渡ししている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居時には生活歴を聞き、その方の今ある状況を受け止め、その方に合った支援を提供するよう心掛けている。直後は絶えず家族と情報交換を行い、ケアの見直しや展開を相談、連絡をしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>調理・掃除などの家事については積極的に協力して頂いている。自立支援の観点でもあるが、「共に力を合わせて暮らしている」ということを入居者にもメッセージとして表したいための取り組みである。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の訪問は多い。秋祭りやクリスマス会には多数出席して下さるなど協力して頂いている事は多い。家族との繋がりをいつまでも持っていたけように関わっており、家族もそれに応じて下さっている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近隣にお住まいの方が多いため、友人の面会も多い。誕生日に昔懐かしい店に食事に出かけるなどのレクリエーションを行っている。</p> <p>シルバー対象の旅行会社を利用して日帰りでのお出かけされる方もおられ楽しみにしておられるようになった。</p>	<p>地元、藤井寺市の方々の入居者がほとんどであり馴染みの場所も近隣にある。その中でも食べ物屋に出かける事も多く、昔懐かしい話を楽しんでいる。</p> <p>事業所は一人ひとりの思い出の場所や人などを把握しており、メンタルな面での支援に取り組んでいる。</p>	<p>これからも、外出があまり好きでない方にも時間をかけて話掛けさせ、馴染みの人や場所との接触を促してあげてほしい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>GH自体の建物が広くない事も功を奏してか、入居者は一応にしてリビングに出て来られる。入居者様同士でTVの話題で話が膨らむ場面もよく見られる。入居者同士が協力し合い家事の手伝いを分担したり菜園活動に参加している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>過去に退居された方であっても、法人として、またGH職員として関わっていることは少なくない。家族様がホームで過ごされた時間を懐かしんで頂き時としてGHに訪れお話をされる方もおられる。</p>		

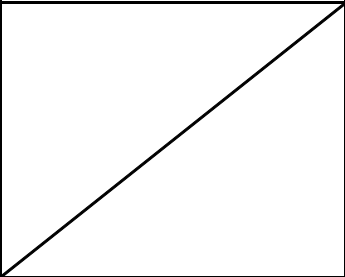
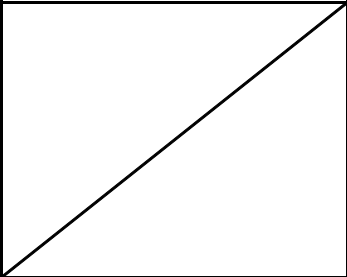
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に『自己決定を尊重し、その人らしい生活を支える』とあることから、ケアマネジメントはもとより職員全員が入居者本位のケアを前提に行動している。又統一したケアができるように会議などで伝えている。	毎日の介護と支援を通じて入居者一人ひとりの思いを把握できるようにしている。言葉かけや表情を読み取りどのような支援がその人に合うかを職員で話し合い共有しようとしている。常に理念を念頭に置いた基本姿勢が窺えた。	入居者の思いや意向が、いかに実現できるかの試行錯誤を繰り返しながら、支援活動を継続されるようお願いするものである。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時のアセスメントは生活歴や嗜好を教えて頂けるような用紙も用意している。直接の情報収集は当然行っている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ごとの担当者を設置しており、その担当者が会議にてその方の心身状況の変化が見られれば発表し、全員が把握できる状況を作っている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家人の面会が多く、プランに反映できるように会話の中でのニーズを逃さないように心がけている。月に一回行うフロア単位の会議にて入居者のプラン見直しの会議を設けている。チームでのサポートを行うために退院時にも全員参加の会議を行い情報の共有とケアの統一を行っている。	介護計画の作成については認知症介護歴17年の管理者と14年の計画作成者を中心に、幅の広いケアのありかたを基本として作成している。家族や本人の話を取り入れ、職員で吟味しあい現実の支援に結び付くように反映している。	計画は長期のものと短期のものに分類できるが、いずれも途中での見直しが必要となってくることもある。日ごろの介護観察を通じて常にスキルアップしてゆく姿勢を維持して頂きたい。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をきめ細かく記載するとともに、情報メモという支援記録と気づきが記載できる書類を通じて職員間の情報共有を図っている。それに基づくモニタリングを計画作成担当者は実施している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHの建物の一階部分が通所リハとなっていることから、通所リハのPTに相談できる環境であり、そのPTもフロアに来てその対象者を直接に見たうえでの動作訓練を職員にできる環境である。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用については関わりは弱い。外出レクとして近隣の公園などを利用しているが、その他の近隣施設を利用できているとは言い難く、課題である。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問回診を受けられる方が多くなってきたが馴染みの掛かりつけの病院にも受診される方もおられる。定期的な健康管理が出来ている。	入所以前からのかかりつけ医を利用している入居者が3名おられる。協力医が青山病院であることから、当病院の診察を受ける人がほとんどである。健康管理については毎週1回は看護職員が訪問回診に来る。	これからも、かかりつけ医と協力医との関係を大切にされ、家族との連絡も緊密にされるようお願いしたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週に一回、隣接協力病院の看護職員が入居者全員の病状把握・相談・指導に来設している。訪問診療に同席する事も多く、医療との連携は円滑に取れている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療法人が運営するGHである事から隣接の病院との連携は円滑である。医師・看護師のみならず、病院内の地域連携室からの情報は個人情報に留意しながらも行われ、入退院についてもスムーズに対応させて頂いている。</p>		
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に入居者及び家族に対して、当グループホームにおける指針の内容を説明した上で、入居者の重度化時及び急変時には重度化対応について話し合っている。また、GHでの生活継続が困難と思われる場合においても適切な施設への転居を提案させて頂くなど、入居者及びご家族の意向を踏まえながら話し合っている。</p>	<p>本グループホームへの入居については家族に十分な説明と理解を得た上で入居してもらっている。本ホーム内での支援活動が困難になった場合でも、入居者や家族の要望や意向を取り入れながら、新たな転居先を紹介するようにし、不安のない毎日を送ってもらっている。</p>	<p>入居時に理解を得ているものの、重度化や支援困難な状況時には、今まで通り懇切丁寧な対応をお願いしている。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>隣接の病院内研修においても、看護師・病院ワーカーが参加するような急変時対応研修があり、GH職員はそれにも可能な限り参加してホーム内での振り返り勉強会を行っている。</p>		
35 13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時対応マニュアルを職員は周知していると共に、消防訓練も定期的実施している。風水害発生時の対応も勉強会を行い職員全員に意識を持って頂いている。地震が発生した時や警報が発令された時に上位職は入居者、職員の安全確認を取っている。</p>	<p>職員は災害発生時の対応マニュアルを認識するだけでなく、年2回実施されている避難訓練にも参加している。職員はこの体験的な避難訓練を受けることにより、現実に即した避難と救出活動を習得している。建物の周囲には比較的広いスペースがあり、避難場所として使用できるものである。ホームの前に消防署があるという立地条件の良さもある。</p>	<p>災害発生時は常に想定外の出来事がありその点について職員同士で問題意識をもち話し合われて欲しい。避難訓練時には可能な限り入居者も参加させるようにして頂きたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては職員に、介護する上での根本的な姿勢を教育している。日々の中でも声掛け・プライバシーの保護を十分注意したケアを実践するよう努めている。「接遇」向上を目的とした研修に参加している。	本ホームでは入居者全員に「さん」付けし、人権の尊重に努めている。またプライバシーの保護にも十分な気配りをし入居者に不快な思いをさせないようにしている。職員の人格尊重とプライバシー確保のレベルの高さは日頃のたゆまぬ研鑽の成果である。	職員は排泄時におけるプライバシー保護の重要性を深く認識し互いに啓発しあっている。この点についてはこれからも、入居者の誇りを損ねないような、介助支援をお願いしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたい飲み物の選択、衣服や野菜にかけるドレッシングの決定など、自己選択・自己決定できる環境では、必ず自分の意思を聞き、想いが反映できる生活づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に沿ったケアを皆が実践すること、だれが主人公なのか、を絶えず意識する事で入居者本位のケアが実践できているが、機会があるごとに職員と意見の交換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマで過ごす、ということがないように入居者に無理なく声掛けし、ホーム内であっても人と会える装いで過ごしていただいている。女性の入居者が多いこともありおしゃれにも気を配り毎日化粧をされる方もおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては開設以来、職員が意識して入居者と関わっている。それにより入居者も炊事場に立つことがステータスになっている。一人の入居者に偏らない様交代性でより多くの方に関わって頂ける様にしている。	給食専門業者のあじみ屋が食材を納入し、ホームで調理をしている。ホームの方針によって入居者にも調理の一部や盛り付けなども手伝ってもらい、生き甲斐にもしてもらっている。時には入居者の希望もとりいれ人気の寿司も作ることもある。	楽しい食事の時間は職員も入居者も和気あいあいとしている。職員の温かな支援が食事の時間をより一層楽しいものにしている。これからも、温かな支援をお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事については、委託業者がメニュー作成と食材配達を行っている。その為、栄養管理については問題がない。個人的な食事への留意については本人・家族と共に話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては研修を通じて知識・技術の向上に努めている。また、訪問歯科の医師・歯科衛生士から教えをいただきケアに繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方については排泄チェック表を作成し、その方に応じたケアを提供するようにしている。出来る限りいつまでも布パンツを使用し、トイレで排泄できるように職員全員が尽力している。	職員は2時間単位で声掛けをしている。中には排泄チェック表に従って声掛けする入居者もいる。晩だけ尿パットをするといった入居者もいて、その人に合った排泄支援に心掛けている。	加齢と共に脚力の低下を招きやすい。職員の介護のもとで各人に合った無理のない起座運動をする事も自立排泄の支援になるのではないだろうか。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事形態の検討、医師・看護師への相談・受診、家族への相談などあらゆる視点から予防に努めている。夜間帯トイレ誘導時にも水分補給を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間を決めず、その方に聞きながら、気分の良い時に入浴を楽しんでいただいている。入浴回数を増やした方がふえて入浴を楽しみにしておられる。	週に2～3回の入浴をしているが本人の要望を中心に考え日時は決めていない。湯の入れ替え、洗髪、着替えは毎回実行され清潔さは維持されている。また、季節の時期にはゆず湯や菖蒲湯なども味わってもらい入居者に喜んでもらっている。	入浴を好まない入居者にも積極的な言葉かけをすることで気分転換を図られたい。また湯に浮くような物を入れてあげるなどの楽しい工夫もどうであろうか。

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は設けず、自然と自身から床について頂けるように心がけている。昼寝については体調に合わせているが居室でTVを見ながら自分の時間を過ごされている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のしおりを確認して皆の薬についての理解を深めている。服用しづらい方には服用方法など薬剤師の方に相談をしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別プランには役割を位置付けており、「一緒に生活を上げていく」ことを実感して頂けるよう、菜園活動や食事作り・清掃など共同生活の中での役割を持っていただいている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その方の想いに添えるような外出などの援助を行っている。家族の協力を得ながら、短時間の外出も行っている。外泊も行っている。月一回のペースでシルバー旅行会社を利用した外出も定着している。	ホームの前にある菜園は入居者にとって最も手ごろな外出場所である。また近くの図書館へ行ったりスーパーに買い物に行ったりする時もある。シルバー旅行社の利用はGHあおやまの外出支援の最たるサービスといえる。	日常的な外出支援の他にも、地域の方々や家族の方々の協力を得て、短時間のドライブなども企画されてみては如何だろうか。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはGH内に個人での金銭持ち込みは禁止させて頂き、しかし外出時の買い物・飲食や外食については前もって立て替えなどで対応し、買い物が楽しめる状況にはするように努めている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話取り次ぎ要望は少なく、掛かってくれば取り次ぐ程度。希望の方には対応している。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓が大きく、駐車場を挟んで幹線道路に面していることから日当たりが良く、木々の色付きを見て頂けたり風を感じて頂ける。季節の移り変わりが分かる環境である。ホーム内は清潔を保つようにして、居心地が良い空間作りを行うように心がけている。フロア内にはその季節ごとに作業レクで作成した作品などを飾りつけている。観葉植物や熱帯魚の水槽を設置し入居者の癒しになっている。	建物の構造上2～3階は同じ間取りであり、共に大きな窓からの採光でリビング全体は明るい雰囲気になっている。壁には皆で作った作品が飾られていたり熱帯魚の水槽も目をひく。共用生活空間として長時間寛げる場所でもあり、何よりもそこには職員達と入居者の温かな語りがある。	四季折々の季節感を出すにはどのようなものが良いかを入居者と共に話しあわれ、季節毎に新しい工夫をお願いしたい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード自体が狭いことから、人同士が関わられる環境ではあるが、一人になれる場所は居室のみである。もう少し小グループで関わられるセミパブリックな空間があればなお良かった。		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、ダンスなどの家具も今まで本人が使用していた馴染みの物を置いて頂き、その場所を自分の居場所だと感じて頂くように、また、使いやすいように自由にレイアウトして頂いている。食事の時は本人用の茶碗や箸・コップを使用して頂いている。自分が一人になれる居場所を持たれ窓から景色を見ている方もおられる。</p>	<p>各居室には入居者それぞれの思い出のものや馴染みの物が持ち込まれ、ご当人の好きなように配置されている。シーツ交換や掃除などは職員が支援をしている。</p>	<p>これからも入居者一人ひとりの個性を大切にされ、このホームで余生を託されている入居者に惜しみのない温かな支援をお願いするものである。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり。</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内は基本的にすべて自由な空間である。新聞や雑誌を置き、パズルやドリルがある。居室には自分の趣味や好きな事に通じる物を置いて頂く事で、自分らしさ失わないようにして頂いている。自分で新聞を取っているかたもおられTV番組をみながら楽しみにしている方もおられる。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない